慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済的努力論
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.1 (1914. 1) ,p.37- 48
JaLC DOI	10.14991/001.19140100-0037
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140100-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「シヤイヤー」「サウザムプトン」「バキングハム」「ノーザムプトン」「ケムブリヂ」「サフオルク」等の地代を自己の手中に收めたり、其後英國對獨逸商人の金貸事業終りを告ぐるや、彼は千三百五十八年居を故國「キョルン」に移し(一)千三百八十六年卽ち逝去の日迄、此地に住せり、而して彼は「ドルトムント」にては廣大なる地面を有し、又た「キョルン」にては葡萄酒の大問屋を營むと共に、織物の取引に從事せり、彼は政治上には何等野心を有せざりしも、然かも宗教上の信念に富みしことは千三百五十八年「ドルトムント」に宏大なる病院を建設し、千三百七十五年には「キョルン」の「カルトホイザー」、「グロスター」に一室を建立すると共に、五百「グルデン」を寄附し其他當時に於ける「キョルン」の寺院及精舍にして彼の恩惠に預りしもの少からざりしを以ても其一斑を知るを得可し。(大正二年十二月廿五日脱稿)

(一)彼の故宅址は現時「キョルン」の「ホヘン、ストラッセ」にあり
(Keussner, Topographie der Stadt Köln I. S. 163)

經濟的努力論

堀切善兵衛

一

近世の發達せる社會に於ては自然と勞力と過去の生產の結果たる資本との三箇を以て必要缺く可らざる生產上の要件と認めざるを得ず、從て國民經濟の發達進步を計らんが爲めにも此三要素と無關係には何事をも企圖するを得ざるは勿論にして、換言すれば國民經濟の發展は以上三要素に依りて支配せられ制限せらるゝものなりと云ふを得可し、例へば自然の資源如何に豐富なるも勞力及び資本の非常に缺乏せる國に於ては大なる經濟上の發展は之を望む可らず、又資本勞力如何に豐富なるも自然の給與に限りある場合には之れ亦俄かに偉大なる國民經濟の發展を期待するを得可らざるが如し、其結果經濟學に志すものは動もすれば自然法若くは宿命說の支配する所となりて自由放任主義に陷り進取努力の思想

に缺如たるもの多きは遺憾なりと云はざるを得ず、余は今夏中歐米諸國を旅行して我國の經濟財政に關し日頃注意を怠らざる數名の外國紳士を訪問し我國の經濟財政策に對して意見を徵したるに其一人は凡そ國民經濟の發展は其領域内に存在する富源の大小に依りて局限せらるゝものなるが故日本の如く此關係に於て餘り有望なりと云ふを得ざる國に在りては或程度を以て滿足するの外ある可らず、徒らに保護奬勵等に依りて大なる進歩を促さんと欲するも到底無効に終る可しとの意を述べられたり、蓋し此實業家の考も亦生産要素の一たる富源に依りて産業發達の制限せらるゝものたるを前提とせる意見たるは勿論にして、吾輩と雖も全然斯の如き考を度外視するものに非らず、然れども所謂經濟發達の要件たる自然若くは資本勞力等を以て一定量に限られたるものと思惟せば重大なる誤解の之れが爲めに生ぜんことを恐れざるを得ざるなり、卽ち資本及勞力が人々の任意に增減せしめ得るは云ふまでもなしとして、更らに自然卽ち富源と雖も亦其增減は無限なりと云ふを得可し、何となれば今日世人が經濟界に利用しつゝある自然は決して自然の全體に非ずして其一少部分に過ぎざるは明白なる事實にして凡そ人間慾望の存する限り、人智の進むに從ひ經濟上に利用し得可き其自然若くは富源は多々益々增加して停止する所を知らざるは敢て疑ふの餘地なければなり、故に生産上の要件には自然資本及び勞力の三者を擧げざる可らざること前述せる如しと雖も、百尺竿頭更らに一歩を進めて國民經濟發展の根本は何ぞやと云ひば結局人間の意思なりと答へざるを得ざるなり。

勿論意思のみを以てして經濟上の物資をば直ちに取得す可きに非ず、恰も飲食店前に立てる乞食の慾望如何に强烈なればとて彼にして購買力を有せざる以上は其の飲食品を取得する能はざるが如し、されば意思の存すると同時に此意思を實現せんが爲めに人間の努力を要すること勿論にして同時に此努力をば最も有効に且つ經濟的に實行せしめんが爲めには人智の發達を必要とするは云ふまでもなき所なり、而して個人經濟の場合に於ては互に最善の力を盡して自己に最も有益なりと信ずる方面に向つて努力せざる可らざるは明白なれども、之を國民經濟若くは社會經濟の見地より判斷する場合に於ては一國若くは一社會の最良智識に依りて全體の爲めに最有益なる方面に向つて一國又は一社會の努力を促す

必要ありと云ふ可し、若し夫れ然らずして徒らに人々の自由行動をのみ經濟上の理想となさんか、各個人自らも決して充分に其目的を到達すること不可能なる可し、何となれば個人も亦國家若くは社會の一員として經濟上の活動を爲すものに外ならざるが故全體の發達進歩なくして獨り自ら利益すること困難なるを以てなり、然も之に反して社會全體が進歩發達する場合には個人は座らにして其利益に浴する場合少なからず、彼の文明諸國に於て何人も多額の勞銀を取得し大都會の地主輩が何事をも爲さゞるに拘らず地價騰貴の利益に浴し得るが如きは其例なりと云ふを得可し、されば吾人は個人の場合に於ては個人自らの努力を以て其進歩發展の根本なりと認めざるを得ざると同じく、國民經濟若くは社會經濟の場合に於ては其國民若くは社會全體の努力を以て經濟發展の根本義なりと認めざるを得ず、但し個人の場合に於ても盲目的の努力が決して意思到達の最良手段に非らざると同じく、國民若くは社會經濟の場合に於ても何等の指導者なく、永遠の計畫なく、全體の利害の考なく、組織なき秩序なき團體員の自由行動を以て理想と見做すこと能はざるなり、況んや最初より其活動の範圍たるや自然に依りて局限

せられたるものと信じ何程奮勵努力すと雖も我の富源に限りあり、從て大なる發展望む可らずと思惟して因循姑息の弊に陷るに於てをや。

二

自然の經濟的利用は人智の進むに從ひ其極まる所を知らざるは前言せる所の如し、然れども茲に人々の誤解なからんことを望むは經濟的利用と云ふは決して同一物をば同一目的の爲めに無限に利用せんとの意味に非らざること之れなり、例へば我國現今の耕地面積よりは元より無限に多大なる米穀の產出を期待し得可きに非ざるは勿論なり、然れども我國の領土內に存在する自然其物よりは人智の進むに從ひ殆んど無限に經濟貨物を產出せしめ得可きは疑を容れざる所にして、要は財貨の產出に在りて必ずしも飲食物を意味するに非らず、同時に領土其物と雖も決して今日の範圍に限られたるに非ずして、之れ亦領土擴張の國民的意思と之に伴ふ最善の努力とを以てせば今日の二倍三倍に之を擴大すること不可能なりと云ふ可らず、彼の英國が殆んど其本國の領土を百倍ならしめたるは國民努力の結果に非ずして何ぞや、されば吾人は國民の意思と努力との存する所、自然但

しは富源は二重の意味に於て增加せしめ得るものなることを認めざるを得ず、卽ち其一は自然の征服に存し、他は領土の擴張に在りと云ふ可し。人或は言はん、領土の擴張を云々するに至りては是れ已に經濟論の範圍を脫して政治論內に侵入せるものなりと、然れども吾人は政治を離れて國民經濟を論ずるの迂愚を感ずるものにして、英米佛獨露蘭の諸國が其領土の發展を伴はずして今日彼の經濟的發達を遂ぐる能はざりしは想像するに難からず、而して白耳義、瑞西等の諸國は能く狹少なる其領土を以てして相當なる經濟的發達を爲すを得たるは畢竟其周圍に強大國の存在したるが爲め間接に餘惠を受けたるものと云ふを得可し、蓋し世界各國互に其領域を限定し自國民の發達幸福をば主眼として諸種の政策を實行する以上は他國の領土內に存在する富源に對し一國民が直接接觸して其開發を計ることと極めて困難なり。縱令强大國は三等國若くは四等國に對して時に此種の利權を攫得することと無きに非ずと雖も、然も之と同時に法律習慣言語を異にし、特に平和の保障確實ならざる是等の國に資本を投入し事業を經營するは甚だ困難なるが故に多くは躊躇するの常なりと雖も、一度其地方が一國の領土內に併合せらるゝや企業家は安心して事業に著手するを得可きが故に、富源の開發は決して從來と同一の談に非らず、之れ佛國がアルゼリア、チユニスを占領し、米國がキユバ、ポートリコ、布哇等に特種の政治的地位を占むるに至り、日本が臺灣朝鮮を合併せる後數年の歷史に徵し何れも其揆を同ふする所にして、恰も農業地の利用には時にインテンシーブに之を耕作するの有利なることなり、又場合に依りてはエキステンシーブに其耕地を擴張するの有利なることと有り、時と場合とに依りて相互に兼つ可らざると等しく、一國の富源開發にも亦既得の富源をインテンシーブに利用せざる可らざる事あり、又時としては進んで新たなる富源を海外に攫得するの得策なること有り、領土の擴張を以て必ずしも國民經濟の發展に關係なしと云ふ可らざるなり、而して個人經濟の場合に在りては其活動は主として國內既存の富源に對して差向けらるゝの常なれども、若し一度海外に新富源を攫得し若くは之を開發せんと欲せば獨力の能くする所に非ずして結局政府の後援を俟たざる可らざるは明白なり、之れ吾人が國民經濟の發展を計らんが爲めには個人の自由活動のみを以てしては到底充分に其目的を達し得可きに非ず、最良の智識に指導せ

られたる全體の努力を必要とする理由の一なり、彼の英國人の如き最も獨立自營の精神に富む國民なりとは雖も然も加奈陀若くは印度に於て大敵佛國人を壓服して善く最後の捷利を收め得たるは當時の英國政治家が戰時に際して極力其束印度會社と北米植民地とを援助したるに據らずむばあらざるなり、豈英人が自由放任と宿命說とに依りて此大事業を成就したるものならんや。

三

個人が若しも天賦の智能にのみ依賴して一事一業に對する其奮發努力を缺かんか、遂には凡庸人にだも及ばざるに至る可きと同じく、一國民全體としての努力を缺かば亦等しく自然的條件の甚だ劣れる他國の爲めに凌駕せられざるを得ず、而して全體としての努力を促す爲めには學者政治家等の指導其宜敷きを得るや否やは最も重大なる關係を其結果の上に及ぼすに至るべきは言を俟たざる所にして、若し極端まで個人の自由活動を是認すると同時に政府若くは學者經世家等の思考する所施設する所に反對す可しとなさんか、古往今來世界の大政治家大學者等が畢生の心血を吐露して考慮經營したる凡百の事柄は悉く無用の長物に過ぎずと云はざる可らざる可し、豈斯の如きの理あらんや、社會の發達進步の爲めには偉人の勢力の大に與て力あるものなることは社會學者の等しく認むる所なり、從て國民經濟の發展の爲めにも亦偉大なる政治家偉大なる學者の力に俟つ所極めて多きを信ぜざることを得ず、マーカンテリズムの弊風を指摘したるアダムスミス以下自由派學者の功は之を沒す可きに非らずと雖も、然もマーカンテリズムの建設者は其當時に於て各國の國民經濟構成の爲めに大功有りしを忘る可きに非らざるなり、要するに學者と政治家とが一時代に於て最も進步せる頭腦を以て國民全體に取りて最も必要有益なりと判斷する計畫施設を定め其方面に向ひて國民の發奮努力を惹起するは極めて肝要なりと認めざるを得ず、近時英國に於て政治家としてはロイド、ジョウヂ氏學者としてはシドニイ、ウエッブ氏等が相呼應して社會政策の實行に努力しつゝあるは之れ亦英國國民經濟の健全なる發達を促す爲めに頗る有益の擧たるは疑ふの餘地なかる可く、何人と雖も是等の諸氏が無益の事業に沒頭しつゝあるものと評せざる可し、蓋し英國の生產業に從事する人々中大多數を占むる勞働者階級が其生活狀態を改良し子孫の敎養增殖の爲め

より多くの餘裕を生ずるに至るの事實は將來の英國產業會に良好の結果を生せずと云ふ理由なければなり。

四

昨今東北飢饉の聲は又もや朝野の注意を喚起するに至りたり、然れども東北の土地は日本人の想像しつゝあるが如く決して經濟的に不良なるものに非ず、其氣候は農作に不適當なりと云ふにも非ず、試に見よ、英獨露等の諸國に於て最も良く開拓せられつゝある地方は多く北偉五十度附近に非らざるはなきなり、卽ち樺太に於ける日本領土の最北と同偉度に位するなり、之を思へば東北地方の如き氣候は寧ろ溫和に過ぎたりと云はざるを得ず、然も年々凶作飢饉の襲來を免れざるは自然の關係以外に人力の盡さゞるものの有るが爲めなるは一見明白なる所にして、吾人は東北救濟の策たる彼等の經濟的努力を刺擊し彼等の智力を啓發するの外別に良策あるを知らざるなり、彼の獨逸の如きは決して地味豐沃氣候溫暖なりと云ふを得ざるに拘らず其經濟上の發達は逐年見覺しきもの有りて存す、殊に海軍に於ては英國と競爭し、陸軍に於ては露國を壓せんと欲し、爲めに所謂不生產的に

國費を費す所少なからず國民の負擔決して重からざるに非らざるに拘らず、其經濟的發達は年々著しきもの有りて存するは偏に國民の經濟的努力の結果なりと云ふの外なきなり。

獨逸の或學者は國民經濟の發展を促す原動力を說明せんとするものに三種あり、一はIdeologisch 二はtechnologisch 三はanthropologischなりと稱し、就中其三卽ち勞働力の增加を以て最も重大視したりと雖も、吾人の考に依れば勞働力の增加の如きは未だ以て眞乎の原動力と見做す可らざるが如し、例へば支那印度等に於ては國民の勞働力の多きこと殆んど世界中他に比較す可きもの非らざるに拘らず、其經濟上の發達は殆んど見る可きもの少なきに非ずや、されば人口のみ徒らに增加したればとて國民經濟は發達し得可きものに非ず、又技術の進步は要するに或目的に到達せんが爲めの手段に精巧を加へたるに止まりて其目的は別に存在せざるを得ず、而して其目的は人間の需要の滿足に存するは元より云ふまでもなき所にして、此需要の滿足を得んとする人間の努力てそ技術の發達進步をも促す原動力となるものなり、又自然を征服し富源を發見し不生產的人間の動作をば生產的に

變更せしむるの原因ともなるものなり、同時に斯の如き努力の用意ある人口の、增加こそ初めて一國の經濟を發達せしむるにも至るものとす。

個人たると國家たるとを問たず此努力を伴はずして如何なる方面に於ても大なる發展は庶幾し得可きに非らざるなり、然るに自由派に屬する人々は動もすれば政府の干渉を排斥するを以て能事了れりとなし、但しは個人の自由行動をのみ唱導して國家的團體的の計畫、活動を非難し、甚しきは無爲安逸退嬰孤獨の弊に陷りて自ら怪まざるものなきに非ず、政府の干渉は時として大に排斥す可きものあるは勿論なりと雖も、然も賢明なる思慮計畫に元く政府の活動は常に國家の爲めに必要なり、同時に自由思想に原く個人の行動にも常に賢明なる思慮と熱心なる努力となかる可らず、要するに吾人は經濟思想の如何を問はず、學派の如何に論なく、國の東西古今に關係なく各々自家の範圍に於て努力の必要を認むるものなり、殊に我國の經濟財政の現狀に鑑みて其必要を感ぜざるを得ず、無爲の放任主義に依り、但しは鎖々たる政府財政策の變更に依りて大なる國民經濟の發展を導かんとするが如きは到底不可能事なりと知る可きなり。

雜錄

英國の食物供給問題

エコノミスト

本篇は一九一三年十一月一日の「エコノミスト」社說を譯出せるものなり。

合衆國に於ける關稅輕減の爲めに生ずる大なる結果の一は從來世界に於ける重要なる公開市場として英國に輸送せられたる濠洲並にアルゼンチーンの食料品供給の割合に異動を惹起さんとするの事實にして、思ふに此事は先づ濠洲、ニユージーランド並にアルゼンチーンより英國に來る肉の輸入に現はれ、次いで穀物の供給に及ぶ可し。近年英國は肉類の輸入に關して、前後二回の恐慌に襲はれたれども、小麥供給の安否は更に國民全體に大なる利害關係を有し、市場に於ける少許の恐慌を以てして、尙ほ其代價を暴騰せしめ、代價の騰貴は貧困なる消費者を窘迫せざれば已まず。バークの云へる如く饑饑の恐怖を以て人民に迫るは政治の平安を維持するに最も危險なるものなり。平靜なる供給を受け、殊に世界豐作の惠に浴しつゝある今日、將來に於て英國は如何なる方面より穀物の供給を得るや將た又一年中の各時期に生ずる供給の變動は何等の危險を及ぼさゞるやの問題を研究するの必要あるは論を俟たず。

千八百七十一年より千八百八十五年に至る間英國が合衆國より輸入したる小麥の平均額は穀類、穀粉を合せて、全體の輸入額の五割を超過し、千八百八十六年より千九百六年に至る間は平均四割八分四厘に下降したり。更に之を數量より云へば千八百九十九年より千九百九十九年に至る四年間の平均は六千二百五十萬cwtsなりしが、千九百六年に至る四年間に於ては、二千九百萬cwtsに下り、千九百七年より千九百十年に至る四年間に於ては二千九百五十萬cwtsに上